

V 具体的な実践から学ぶために

1 小・中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーターの具体的実践

(4) D 中学校の取組 ～全教職員で全生徒を理解・支援～

1 ここがポイント!

- 特別支援教育の原則確認
～校内ルールの確立～
- 個別の指導計画作成に
全教科担任参加
- 話し合える学校づくり
～職員会議の活用～



2 年間スケジュール

月	特別支援委員会
4月	○特別支援教育の方針確認 ○「気になる生徒」調査
5月	○第1回特別支援教育委員会・就学指導委員会開催 ・「気になる生徒」の確認、支援内容・体制の相談
6月	○保護者との教育相談 ・支援内容・体制の確認 ○個別の教育支援計画・指導計画作成(前期)
7月	○就学相談の実施(該当生徒のみ)
9月	○第2回特別支援教育委員会・就学指導委員会開催 ・就学判断、校内支援体制の見直し・確認
10月	○個別の教育支援計画・指導計画の評価・作成(後期)
1月	○保護者との教育相談 ・支援内容・目標の評価、見直し
2月	○第3回特別支援教育委員会・就学指導委員会開催 ・校内支援体制の見直し・確認
3月	○個別の教育支援計画・指導計画の評価・まとめ

3 特に工夫していた点

【特別支援教育の原則確認】

ポイント① 年度の最初に全教職員実行可能な最低限の【原則】を確認していました!



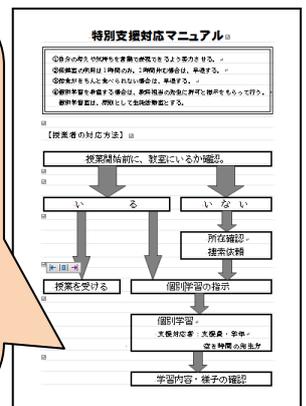
D 中学校では、第1回職員会議で校長先生から特別支援教育に対する方針が示され、次いで特別支援教育コーディネーターから、『特別支援教育の原則』を示し、全教職員の共通理解の下、それぞれの先生方の個性を活かしつつ、指導に役立てていました。

【特別支援教育の原則】

- (1) 個よりも全体を先に指導する。
- (2) 一時に一事。
* 一度にいくつもの指示は通らない。
- (3) 一目で分かる指示の工夫。
* 言葉は削る。
- (4) 増やしたい行動を誉める。
- (5) 減らしたい行動は無視する。
* 見つめるだけ。首を振るだけ。
- (6) 気になる子とのアイコンタクトを多くする。
* 見守られている安心感。

また、教室に入れない生徒が出た時の対応として、『特別支援対応マニュアル』が決められ、すべての学年で同じ対応がとられました。

生徒によって教師の対応を変えるのではなく、全ての子に全ての教師が、基本的に同じルールで接することができる学校ルールを作っておけば、教師も悩まずに対応ができ、生徒も差別意識なく支援を受け入れることができますね。



V 具体的な実践から学ぶために

1 小・中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーターの具体的実践

【個別の指導計画作成】

ポイント② 個別の指導計画作成には、その生徒にかかわるすべての教科担任が参加しました。



4月の「気になる生徒の調査」では、「コーディネーターハンドブック」の第Ⅱ章2の☆活用型資料『気になる』児童生徒のための校内把握シート～学級用：チェック式～を利用して、全教職員が自分のかかわる学級すべてをチェックしました。

さらに支援の必要性が高い生徒については、各教科担任に各教科の「出来ること」「出来ないこと」「具体的目標」を簡単に書き込むことのできる『情報収集個表』を回覧していました。

授業態度や生活態度、部活動での様子も観察や聞き取りで整理することにより、生徒の実態把握を丁寧に行いました。なかなか時間を作って協議する時間が取れない分、職員室でのざっくばらんな会話の中で、「気になる生徒」の具体的な目標や支援策を多くの先生方で話し合い、決定していました。

評価は二期制で行い、9月から10月にかけて、前期の目標を評価し、後期の目標を立てていました。目標や評価に悩みをもつ教科担任には、特別支援教育コーディネーターが相談に乗り、確かな成長を感じることで指導計画になるよう配慮していました。

中学校では、教科指導や部活動指導に多くの先生方がかかわります。そのすべての先生方に働きかけ、各教科ごとの支援をそれぞれに考えてもらえるよう回覧して記入するようにするなど、あえてケース会等をもつのではなく、いつでも「気になる生徒」について話し合える雰囲気、職員室に作ることも大事ですよね。

【職員会議の活用】

ポイント③ 職員会議の最後には、必ず特別支援教育コーディネーターから一言！



職員会議の最後には、必ず『特別支援教育教育コーディネーターから』を設けてもらい、様々なお知らせをしていました。

「気になる生徒」の保護者との教育相談の報告や、それぞれの生徒に対する支援内容・体制を各学年、各担任から報告してもらったり、生徒指導問題と絡めて、「気になる生徒」が起こした諸問題についても「本当にあの指導・支援で良かったのか？」「他の指導・支援方法は考えられないか？」「担任以外の教師ができることは何か？」などの振り返りを行ったり、新しい特別支援教育に関する情報提供を行ったりするなど、全教職員で理解し合いたい内容を中心に、話題提供をしていました。

職員会議後も、先生方が近くの先生方と意見交換を続ける様子が見られるなど、いつもうまくいくわけではない指導や支援への悩みを、お互いに話し合うきっかけとなっていました。

『話しにくいことを話しやすくする』しかけは大事です。話題を提供するだけで、先生方は熱心に話し合ってくれますよね。

4 特別支援教育コーディネーターとして、大切にしている3つのこと

1 学習や部活動、人間関係につまづいている生徒の最大の理解者になる。

『一番困っているのは生徒自身』であることを忘れずに、本人の気持ちや願いを最も重要視し、本人の困り感をまずしっかり把握することに努めています。中学生という発達段階を踏まえて、本人主導の課題解決になる支援を心掛けています。

2 生徒の指導・支援に悩んでいる先生方の最大の理解者になる。

先生方のポリシーや経験を尊重し、先生の生徒に対する思いに寄り添うよう努めています。支援スタイルは千差万別でいいのですから、それぞれの先生のスタイルの確立をお手伝いできればと考えています。

3 全教職員で、全校生を育てている意識を高める。

『一人では何もできない。全教職員が力を合わせれば、何でもできる。』ことを実感し合える場づくりに努めています。